

《タイトル》命をリレーする次世代啓発

三代前からマーメイド

親譲りのマーメイド

東日本大震災 ～心の復興～

- 震災から11年経った今、将来を担う若年層(15～25歳程度)が主体的に社会参画する。
- ネット環境を活用したDX (*1) によって、私達が居るから大丈夫と老齢高年層に伝える。
- 悲惨な被災の記憶から未だ解放されない人達に将来への希望と心の安らぎを得てもらう。

*1) DX Digital transformation デジタルトランスフォーメーション



2011年3月11日時点 → 2022年

小学1年生	満7(~6)歳	18(~17)歳
小学2年生	満8(~7)歳	19(~18)歳
小学3年生	満9(~8)歳	20(~19)歳
小学4年生	満10(~9)歳	21(~20)歳
小学5年生	満11(~10)歳	22(~21)歳
小学6年生	満12(~11)歳	23(~22)歳
中学1年生	満13(~12)歳	
中学2年生	満14(~13)歳	
中学3年生	満15(~14)歳	
高校1年生	満16(~15)歳	
高校2年生	満17(~16)歳	
高校3年生	満18(~17)歳	

2011年3月11日生れ → 11歳 6年生

当時小学1年生 高校3年生

当時小学6年生 23歳~22歳

若年層 = 15~25歳程度

【被災者の積極的な参画の下で行われる】

【被災者の生きがいがづくりに効果的である】

2011年3月11日に生まれた子は、今はもう11歳 小学6年生になります。

惨事を目の当たりに深い心の傷を負った、当時小学6年生も23歳になります。

そしてこの人達は、自分達は、大人のたゆまぬ努力のおかげで「生かされてきた」ことも知っています。

しかし一方で、大人たちの中には、努力も報われず、再建の気力が萎えてしまった人や、年長者には未だ立ち直れず、孤独に過ごしている方もいます。

私たちの事業は、

- ・10年ひと昔という言葉自体、もう古い現代ですから、
 - ・被災者の中でも特に「若年層」が、現代っ子スタイルで積極的に参画し、
 - ・新しい社会の「けん引力」となる、
 - ・そんな若年層の活動に、老齢高年層は、頼もしさを感じ、
 - ・若い人たちに「頼って生きていこう」と将来への安心感を覚える、
- そんな活動を支援します。



- 「銀河鉄道」による大槌との繋がり
- I L C と宇宙の繋がり
- 五城目町 北松斎(花巻城城主)の弟
 - ・ 能代市 J A X A ロケット実験場
 - ・ 2013年の発団式 及び 翌2014年に
来県し、大船渡、陸前高田を訪問

CONTACT 手段



- 見せられているものと、その裏側
- 思い通りにいかないと キレる子
- 状況・雰囲気を不自然に取り繕わなければならないネット飲み会

【支援方法 know-how】

私たち花巻宇宙少年団は2011年に立ち上げましたが、そのきっかけは、ボランティアについて、子ども達に考えてもらいたいと思ったからです。

他との繋がりを大切にし、他の助けとなる人になる、を基調にした活動を試行しながら、2013年に花巻分団として認証を受けました。

「繋がり」は、ICT (Information Communication Technology 情報伝達技術) によって身近になりました。

しかし反面、人の心、思考回路への悪影響も表れています。

—— 例えば、

- ・ プログラミング学習と称したスクラッチ
 - ⇒ ゲームオタク化の助長
 - ⇒ ゲームへ世界に埋没 → リアルとバーチャルの区別がつかない
- ・ 覆面性を背景にした、人権侵害
 - ⇒ SNSの誹謗中傷、いじめ
 - ⇔ 表現の自由より優先される人権

このような点から、私たちは、繋がる前の接触、contactの方法、手段を適切に提供することが必要だと考え、

ネットワークは、若年層にとっては身近なアイテム(道具)ですから、それを活用した、若年層の積極的な参画を期待します。



JAXA宇宙教育センターの学校支援プログラム

トピックスー

このプログラムを進める打合せの際に、「子ども達は皆、タブレットを自宅に持ち帰っているでしょうから…」という提案がありました。岩手は、少なくとも花巻は、特定の時間だけ使い、後は、学校が嚴重に保管している状況を説明し、対象の規模を縮小しました。

結局、自宅でのパソコン使用が可能な家庭ならば 参加・参画できるという現状であり、子どもの貧困の一要素です。

・ DX Digital transformation デジタルトランスフォーメーション：

transformation 変形、変換 等の意味から、IT 乃至 ICT を単に導入するのではなく、それをアイテム(もの、ブツ)として、付加価値を真の価値に置き換えるか、の考え方

【ネットワークの活用】

先にも触れましたが、ICTには落とし穴があります。

落とし穴を知っていれば、そこを回避して、目的にたどり着くことができます。

また、それが落とし穴だと気付いたり、見抜いたりするには、幾度も体験することが必要です。

避難時の心構えとして、鶴住居の学校には「想定を信じるな」というのがありました。体験は、「想定外」を学びます。

更に昨今は、ICT志向を発展させ、ITの浸透によって、人々の生活をあらゆる面でもより良い方向に変化させるという考え方があります (DX)。

ITの浸透とは、端的に言えば、情報伝達技術 (ICT)の中から、何が必要で効果的か取捨選択し導入することです。

以上から、今般は、Zoomをとおして、ネットワークを知り、それに基き、

- ・ 自分たちが「主体」となって活動する
- ・ その活動を他校に「拡散」する
- ・ それを見た賛同者「いいね」を増やす
- ・ 地域にとられない多くの賛同を得る
- ・ 自立できる体制をつくり資金確保する
- ・ 以上を、親や高年層、高齢者に、信頼と安堵感を持たせ、生きがいを持つ一助にする

を、事業の柱にします。

【高柳雄一氏】



講師の一人、高柳雄一氏 (*2) は、NHK出身で、宮沢賢治に造詣^{そうけい}が深く、イーハトーブ岩手に何度かお越しになっています。

宇宙民艦ナナトのナナトは七都で、多摩六都+イーハトーブで七都です。

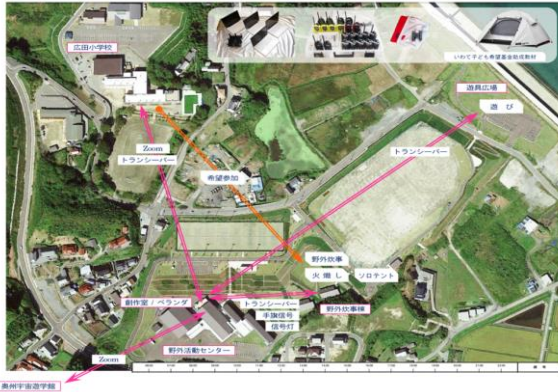
その艦長は、科学館の館長です。

*2) 計画中 (予定)

【ネットワーク/コンタクト体験】

岩手県立野外活動センターを会場にした例

- ・近隣 — トランシーバーを用いたコミュニケーション
- ・遠隔 — Zoom等を用いたコミュニケーション



○ コンタクト手段, ネットワーク体験

物や予算が有ればやる

【一過性の行事】 ⇔ 【持続可能な自立】
資本を得て発展につなげる

- (奥州宇宙遊学館), 多摩六都科学館
JAXA宇宙教育センター
他の学校 ⇒ 協議会発足
自主運営に移行
《必要備品の整備》



【活動のイメージ】

- ・自分たちの手作りのできる 地域貢献を企画する。
- ・その様子を記録し、発信する。

【事業参画のイメージ】

スライドは一例です。

要は、自分たちで企画することから始まります。

第一の成果は、当人たちが、達成感を得て、自尊心が生まれ、社会の主体になり得ることを認識することです。

発信は、「評価」を得る手段です。



【リアルとバーチャル】

- ・嘘くさいことを 実体験から知る。
- ・相手に「伝える」スキルを試行する。

【被災者の積極的な参画の下で行われる】

外に出て活躍する人ばかりでなく、自分達にもやることのある機運を作り、地域の魅力づくりに繋げる。

【被災者の生きがいがづくりに効果的である】

Uターン、Iターンに期待。



【ネット集会】

- ・みんなが参加している臨場感
- ・活動を記録／ネット集会時の全体カメラ

※ ノートパソコンは、花巻宇宙少年団が所有する6台を、事業期間のみ貸与する。

他の機材も、事業が終われば手元に無くなってしまふのでは、自立継続、持続は望めない。

【補助金と贈与】

【“ふり” をするネット環境】

- ・みんなが参加している風のネット会議
- ・飲み放題・食い放題？のネット飲み会
- ・多くは手持ち無沙汰なネット飲み会
- ・ディスプレイの前でマスク？

— 静止画や数秒の動画を見ての真似…

— テレビのスタッフ笑いにひきづられ…

— 何かを話した後に必ず笑う人たち

⇒ ネット会議を何度も体験する
発信方法を考えてみる

⇒ 発信を繰り返し、評価を求める
地元に住てもできることを知る

【本物体験】

⇒ オペレーターを設ける

参加者が見える

発表者や資料も同画面で見える

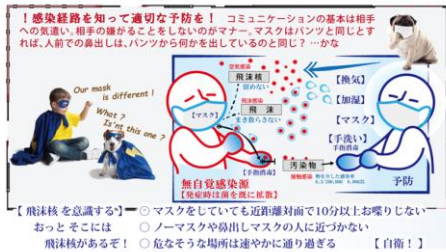
以上が可能なディスプレイ (モニター)

⇒ 機動性カメラで活動を常時記録する
イベントのトピックスに止まらず、
取り組みの全体を記録する
以上を可能にするカメラ等の整備

⇒ 機材等を常時活用できる環境を整え、
賛同する学校や青年団等と協議会を
発足させる。

資金調達を含め、自立に向かう。

【自立継続・持続可能な支援】



【インポッシブルを打破】

- ・ 想定を信じるな
- ・ 想定外を学べ
- ・ 不可能を打ち破り可能にする

【本質に目を向ける】

「ミッション ポッシブル」

私達の事業は、現代社会と若年層の接点に「ネットワーク体験」を媒介させることによって関心を喚起させ、積極的な参画の下で行なう社会奉仕を支援します。

【被災者の積極的な参画の下で行われる】

若年層の社会奉仕活動は、自らの地域の魅力づくりにも繋がり、地域のけん引力になろうと努める若年層に、地域は頼もしさを覚え、それが、地域全体の生きがいにつながることを期待します。

【被災者の生きがいづくりに効果的である】

【まとめ】

親の背を見て子は育つ
 負うた子に教えられて浅瀬を渡る

《 ノート 》

○ 佐々木朗希

生年月日：2001年11月3日 (年齢 20歳)

学歴：岩手県立大船渡高等学校、陸前高田市立高田小学校、大船渡市立第一中学校、大船渡市立猪川小学校

陸前高田市立高田小学校3年生の時、地元の高田スポーツ少年団で野球を始める。

2011年3月11日の東日本大震災の津波で父と祖父母を亡くし、実家も流されたため、4年生時に大船渡市に移り住み、大船渡市立猪川小学校に転校し、地元の軟式少年野球団「猪川野球クラブ」に入部。

○ 大谷翔平

生年月日：1994年7月5日 (年齢 27歳) 震災時17歳

奥州市立姉体小学校3年時に水沢リトルリーグで野球を始め、全国大会に出場した。当時の捕手は、恐怖を感じるほど球が速かったと語っている。

小学校5年生にして球速110km/hを岩手県営野球場で記録し、また1試合で6回17奪三振の成績を残したこともあった。

奥州市立水沢南中学校時代は一関リトルシニアに所属し、ここでも全国大会に出場した。

大谷が少年時代に憧れた野球選手は、打者では松井秀喜、投手ではダルビッシュ有だったという。

高校野球 自身が中学3年時にセンバツ大会決勝に進出した花巻東高校のエース、菊池雄星に憧れ、同校へ進学

3年生になる直前、2012年3月の第84回選抜高等学校野球大会初戦の大阪桐蔭高校戦は、5回まで2安打無失点6奪三振の好投を見せ、相手エースの藤浪晋太郎から本塁打も放ったが、最終的に8回2/3を11奪三振11四死球で9失点（自責5）で敗退。

3年生の夏、2012年度の全国高等学校野球選手権岩手大会の準決勝・一関学院高校戦ではアマチュア野球史上初となる160km/hを記録した。この試合は7回を3安打1失点13奪三振の快投でコールド勝ち。しかし決勝の盛岡大学附属高校戦では、多彩な変化球を操り15奪三振と力投するも、味方のミスや、相手チームによるファウルとの瀬戸際だった本塁打など運にも見放され5失点を喫し、高校最後の全国選手権大会出場はならなかった。

○ ICT Information Communication Technology 情報伝達技術

ICTとは、「Information Communication Technology」の略語で、直訳すると「情報伝達技術」。ITの類義語にあたり、ITとの違いは「Communication」という単語が含まれていること。

IT Information Technology 情報技術

information 情報、知識、(情報・知識の)通知、伝達、(駅・ホテルなどの)案内(係、所)、受付(係)、インフォメーション、(電話交換局の)案内(係)、情報量 INFORM+ - ATION

communication 伝達、報道(すること)、(熱などを)伝えること、(病気の)伝染、通信、交信、文通、(伝えられる)情報、通信文、書信

○ DX Digital transformation デジタルトランスフォーメーション

「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という仮説。

ビジネス用語としては、おおむね「企業がテクノロジー（IT）を利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させる」というIT化といった意味合いで用いられる。⇒trans

trans 「越えて」「横切って」；「貫いて」「通って」「完全に」；「他の側へ」「別の状態へ」；「超越して」「…の向こう側の」の意。

trans- には across（を越えて）という意味があり、後半の cross を「X」と略すことがある；「DX」

transformation 変形、変容、変質、変態、形質転換、変換、変圧、変流

contact 接触、触れ合い、交際、有力な知人、縁故、手づる、コネ、(商売上の)橋渡し役、接点(装置)、相接 【語源】ラテン語「お互いに触れる」の意 (CON - +tangere 「触れる」)

△ もはや戦後ではない

1956年度の『経済白書』の序文に書かれた一節。「戦後から復興するという時代を乗り越え、これからは新しい時代に向わなければならない」

△ 古くは一億総白痴化、現代は？

かつて、社会評論家の大宅壮一が「一億総白痴化」として、受動的にぼんやりと映像を眺めていられるテレビは想像力や思考力を低下させると批評したのは60年以上前の昭和32年のことでした（これは、TV自体が悪いと言うのではなく、番組の内容を批評したものです）。

現代は、子ども達の成りたい職業にユーチューバーがトップに上がり、動画配信の再生回数を増やすためにはどんなことでもする。見る方も、面白いと言って真似をするなど、ことを理解し、自分の頭のなかでさまざまな想像や思考を凝らし、善悪の判断をする能動的な行為に乏しく、短絡的な行動が増えています。

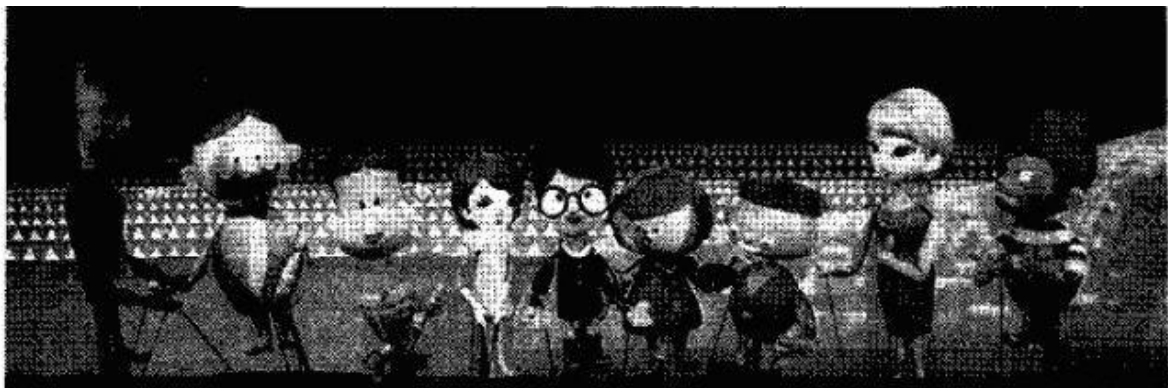
また、平成15年頃、「話をするとき目をそらす(目を見ない)幼児は、家で多くの時間テレビを見せられている傾向にある。一週間テレビを見せないで過ごさせたら、目を見て話すようになった」旨の発表が米国であった、というニュースをNHKのラジオで放送されました。

△ 補助金と贈与

地方公共団体は、地方自治法第232条の2により、その公益上必要がある場合においては、寄附又は補助をすることができる。

しかし、地方自治体が行う補助金の支出は私法上の「贈与」に当たり、また、補助事業者が資産となり得る物品等を購入し、その購入に補助金を用いれば、地方自治体が補助事業者へ「資産贈与」したことになる。

この地方自治体の資産贈与を避けるため、地方自治体は法人等の中間補助事業者を設け、その法人に公金を支出する。中間補助事業者は、地方自治体ではないから、事業者の用途に制限をかけないで済む。



ひょうたん島のメンバー(左から)マシガン・ダンディ、ドン・ガバチヨ、テケ、プリン、博士、チャッピー、ダンブ、サンデー先生、トラヒゲ

ひょうたん島は、死後の世界だった



井上ひさし

作者・井上ひさしが初告白

サンデー先生も子供たちも、実は最初から死んでいる人だった。一九六四年から五年間、NHKで放送された人形劇「ひょうたん島」。作者の井上ひさしの故郷でもある、山形県川西町のフレンドリープラザで開かれた「ひょうたん島」を語り合う講座の席上で、井上はスタッフにも伝えていなかった衝撃的な秘密を明かした。

も存在しない、我々が新しい生き方を作って行かなくてはならない、どこでもない場所」になっていったという。

そして、そんなどこでもない場所」の物語にリアリティを持たせ、作者の

「これが子供番組かって、最初は抵抗されましたねえ。「ひょうたん島」を企画した元担当ディレクターの武井博が、井上との対談で当時を振り返った。井上も「考査卒の台本チェックで、いっぱい付せんがついて戻ってきた。せひ直し

て欲しいって」と話す。二人が自分自身を納得させるために出した結論が、死かかった講師陣から、「言葉遣いが悪い」「人形がクロテスク」などの苦言を目にした体験談が披露された。のために、二人だけの秘密だった。

さらに、井上は「サンデー先生と五人の子供たちは、最初にひょうたん島へ遠足に行った時、火山の噴火で死んでるんですと、衝撃的な設定を初めて明かした。

その背景について、井上は静かに語り出した。井上、共作者で七八年に亘りなつた山元謙久、武井ディレクターの三人とも、家庭の事情で親に頼れない少年時代を過ごした。

大人たちに徹底的に絶望した一少年たちが、ユートピアとして考えた「ひょうたん島」は、「親も大人

会場からは、ショックだ」という声も聞かれたが、大半の人が、納得した顔で、井上の話に聴き入った。

この番組が、多くの人の心の中で生き続け、魅了しているのは、今なお、ひょうたん島の世界が、三十六年前と同じぐらい遠い、あのころのユートピアだからなのかかもしれない。

公金補助に関する基本的な考え

大雪りばあねっと

だいせつりばあねっと

北海道旭川市にあった特定非営利活動法人である。2005年（平成17年）に北海道から認証を受け設立された。石狩川上流域での環境保全や、自治体のレスキュー隊に救助訓練を指導するなどの活動をしていた[1]。2011年4月に旭川市へ監督権限が委譲された[2]。後にずさんな運営問題が明らかになり[2]、2013年（平成25年）5月15日に東京地方裁判所より破産手続開始決定を受けた。負債総額は約5億6000万円[3]。2014年（平成26年）2月4日には、代表の岡田栄悟が業務上横領容疑で逮捕[4]、懲役6年の実刑判決を受け[5]、確定した[6]。

岩手県のずさんな事業検査

「御蔵の湯」建設の際、岩手県は2012年4月の事業検査で、建設・土木事業に当たり、補助対象外との見解だったが後に一転、オール・ブリッジを介したリース事業とし、補助対象と認めた[9]。これに対し、県の雇用対策労働室の特命参事は事業内容を突っ込んで確認していなかったことを認めた。[9]

山田町のずさんな事業委託

町は事業委託の際、大雪りばあねっと。の過去の実績や、収支報告を一切確認せずに委託し、事業費全額を前払いした。また、大雪りばあねっと。の岡田代表を町の主幹に任命したときも履歴書の提出も受けていなかった。

事業半ばでの従業員137人全員を解雇

2012年12月に事業費を使い切ったことを理由に従業員137人を全員解雇した。2013年3月に元従業員約30人が労働組合を設立した。今後、大雪りばあねっと。に対し、解雇予告手当の支給と解雇に至った経緯の説明と謝罪、山田町には雇用確保を求めていく方針[2]。